

# PAH1 (警察犬臭気選別第1作業)

科目、配点 [110点満点]

## A 服従作業 (80点)

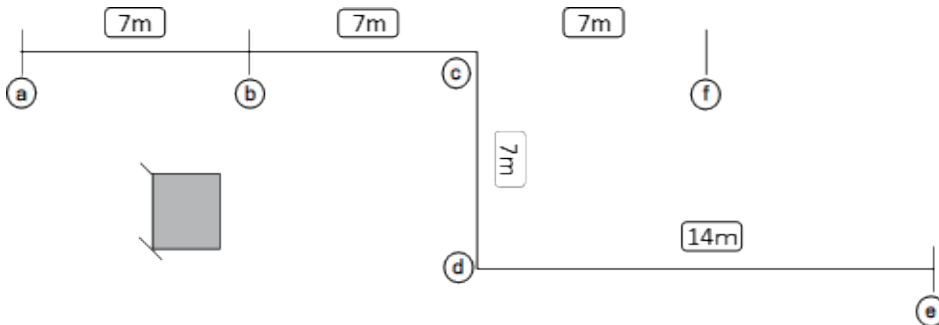
科目1	紐無脚側行進	(10点)
科目2	常歩行進中の停座及び招呼	(10点)
科目3	常歩行進中の伏臥及び招呼	(10点)
科目4	常歩行進中の立止	(10点)
科目5	ダンベル持来 (100g以上)	(10点)
科目6	片道障害飛越 (高さ 体高の約1.2倍 最高70cm)	(10点)
科目7	休止 (5分)	(10点)
科目8	立止時の銃声テスト及び対人態度	(10点)

## B 指導手の直付臭による臭気選別作業 (30点)

連続3回正解	(30点)
3回正解、1回不正解	(20点)
2回正解、2回不正解	(15点)
3回失敗	(不合格)

## 実施要領

コース図



### 科目1 紐無脚側行進

声視符 「アトへ」(出発、コーナー×4、折り返し、終点)、「スワレ」

①点で紐無し(紐は指導手の肩に掛ける。)で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、③点で右折した地点から緩歩で④点に進み左折した地点から常歩で②点まで進み反転し、止まることなく速歩で④点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

### 科目2 常歩行進中の停座及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、④点で指導手は歩度を変えずに犬に停座を命じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

### 科目3 常歩行進中の伏臥及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「フセ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「フセ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、③点で指導手は歩度を変えずに犬に伏臥を命じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

### 科目4 常歩行進中の立止

声視符 「アトへ」、「タッテ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、④点で指導手は歩度を変えずに犬に立止を命じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により①点に戻る。

## 科目5 ダンベル持来（100g以上）

声視符 直接脚側停座の場合「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」、「ダセ」

対面停座の場合 「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「スワレ」、「ダセ」、「アトへ」、「スワレ」

指導手はダンベルを持ち①点で脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示により犬に待てを命じ、ダンベルを7m以上投げる。ダンベルを投げるとき指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により持来させる。犬がダンベルを咥えたら犬を招呼し、直接脚側停座するか、対面停座をさせ審査員の指示によりダンベルを受け取る。対面停座をした場合は、審査員の指示により脚側停座させる。

## 科目6 片道障害飛越（高さ 体高の約1.2倍 最高70cm）

声視符 「トベ」、「マテ」、「スワレ」

障害から任意の位置で脚側停座させ、審査員の指示により指導手は位置を変えずに犬に飛越を命じ、飛越をしたら審査員の指示無く立止を命じる。審査員の指示により指導手は常歩で犬の右側へ行き、審査員の指示により脚側停座させる。

## 科目7 休止（5分）

声視符 「フセ」、「マテ」、「スワレ」

所定の地点で紐無し（紐は指導手の肩に掛ける。）で脚側停座させ、審査員の指示により犬に休止を命じ、審査員の指示により犬に待てを命じ、指導手は常歩で振り返ることなく指定された物陰へ隠れる。5分後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。

## 科目8 立止時の銃声テスト及び対人態度

所定の地点で紐付きで立止を命じ、指導手は犬の体に触れることなく側に立つ、約10m離れた地点でピストル（陸上競技のスタート用）を発砲し、音響に対する態度を見る。1回にて判定困難な場合は再度発砲する。対人態度等は、審査員が立止している犬の近くに寄り、指導手と話をするなどしながら犬の態度を観察する。

## B 指導手の直付臭による臭気選別作業

- 臭気選別作業は4回行うが、連続3回成功した場合は4回目を省略する。
- 1回の作業時間は1分間。犬を選別台に向けて出発させてから、犬の四肢がスタートライン越えた時点までとする
- スタートラインから10m前方の地点に、選別台を横位置に配置する（3mラインは設けない。）。
- 選別台に置く選別物品は、白布（縦約20cm、横約10cm）を使用し、本臭（指導手の直付臭）を付けた白布1点と誘惑臭（同一人の第三者の直付臭）を付けた白布4点とする。
- 本臭を置く位置は、審査員が決定し、指導手には伝えない。
- 選別台に白布を置くのは、試験要員とし、ピンセット等を使い白布に他の臭気を付けないようにして、選別台の穴の中に軽く押し込む。

## 実施要領

- 1 指導手は、スタートラインの手前で選別台に背を向け脚側停座させ、紐を外す（紐は肩から掛ける。）。
- 2 指導手は、試験要員から本臭用の白布を受け取り臭気を付け、試験要員に渡す。
- 3 審査員の指示により選別台方向に向き、白布を嗅がせ「捜せ」、「持って来い」等の命令で出発させる。犬が白布を咥えたら招呼してもよい。
- 4 犬が白布を咥えたら、指導手は犬を対面停座又は直接脚側停座させて白布を受け取ることが原則であるが、犬の四肢がスタートラインを越え、かつ、白布もスタートラインを越えた位置に犬が落した場合は、雨、風、その他の条件により審査員の指示で指導手が拾うことができる。
- 5 白布を犬から受け取ったら、原臭白布と共に審査員に提出する。
- 6 再度、選別台に背を向け脚側停座させ、2回目以降を1回目と同様に行う。